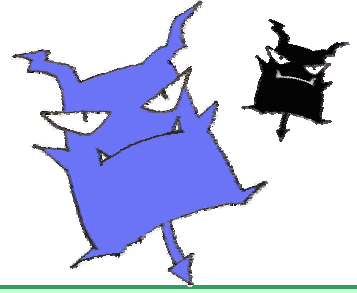


平成20年7月

かんせんしょう

# 京都市こどもの感染症



## これから流行りそうなものは...

< 去年の今頃(7月)に多かった感染症 >

順位	病気の名前	特徴, 予防法など
1位	感染性胃腸炎	発熱, 下痢, 嘔吐などが症状です。予防は, 調理前, 食事前, トイレの後などの手洗いが基本となります。下痢や嘔吐が続くと脱水症になりやすいので, 水分補給をこまめに行いましょう。
2位	ヘルパンギーナ	夏かぜの一種で, 高熱とのどにできる水疱(すいほう)が特徴です。原因となるウイルスが何種類もあるため, 何回もかかってしまうことがあります。咳やくしゃみの他, ウイルスが付いた手を介しても感染するので, 予防には, 手洗いとうがいが必要で大切です。
3位	水ぼうそう (水痘)	全身に発しんができます。感染力が強く, 肺炎・脳炎・髄膜炎などの合併症を併発することもあります。 発病3日以内に抗ウイルス薬を服用することで, 症状の軽減が期待できます。 予防接種は任意(1歳以上で, 1回接種)ですが, 集団生活をする場合は, 受けておかれることをおすすめします。

## 腸管出血性大腸菌感染症に注意しましょう!

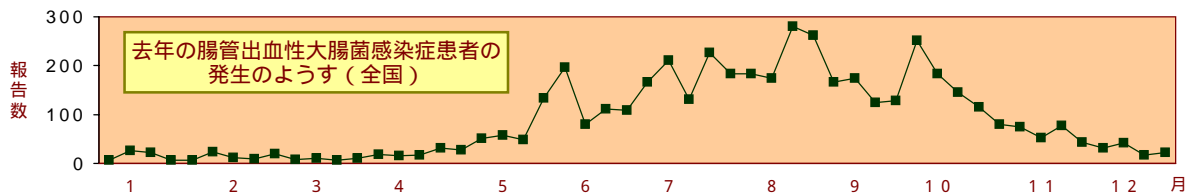
腸管出血性大腸菌感染症と聞いて, 耳になじみのない方も, O157(オーいちごうなな)といえば, 御存じではないでしょうか。

O157は, 腸管出血性大腸菌感染症の原因となる大腸菌のひとつで, ほかに, O26やO111, O121などの大腸菌が, 腸管出血性大腸菌感染症の原因菌として, 知られています。

腸管出血性大腸菌感染症は, 毎年, 気温の高い6~10月ごろに多く発生します。

抵抗力の弱いこどもは感染しやすく, 重症化することもあるので, 特に注意が必要です。

菌に汚染された食品を飲食することから感染するほかに, 患者さんの便で汚染されたものに触れることから起こる二次感染も多く, 家族や施設で集団発生することがあります。



### 主な症状は

感染してから3~5日後に, 腹痛や, 何回もの水様の下痢を起こします。これが血便になることもあります。軽い下痢程度で終わったり, 全く症状が出ないこともあります。その一方で, 重い合併症を起こして, 死に至ることもあり, 注意が必要です。

### 予防の方法は

外出から帰った後, 食事の前, トイレの後などには, よく手を洗いましょう。

食品, 特に肉類は十分に加熱しましょう。

生肉(特に生レバーやユッケなど)は控えましょう。こどもやお年寄りや生ものを控えましょう。

まな板や箸は, 生肉を扱うものとそれ以外のものに分けましょう。

特に焼肉やバーベキューでは, 生肉に触れた箸が直接口に入らないように注意しましょう。

### 二次感染を防ぐために

下痢が続くときには, すぐにかかりつけの医療機関を受診しましょう。

患者の便に触れたときには, 石けんと流水で十分に洗い, 消毒しましょう。

衣類等に患者の便がついたときには, 煮沸するか消毒した後, 他の人のものとは別に分けて洗濯し, 天日で十分に乾かしましょう。

患者の入浴は最後にするが, シャワーだけにし, 風呂の水は毎日入れ替えましょう。

気になる症状があるときは, かかりつけの医療機関に相談しましょう!

発行/京都市保健福祉局  
保健医療課, 衛生公害研究所  
(ホームページにも掲載しています。)